

法令彙纂

CZ
251
014

CZ
257
0/4

特/4
54/1

№4269/23

法令彙纂目次

衆議院議員撰舉法

衆議院議員撰舉法罰則補則

衆議院議員撰舉法施行規則

衆議院議員撰舉法施行規則取扱規定

府縣會議員撰舉規則

議會并議員保護規定

市町村會議員撰舉罰則

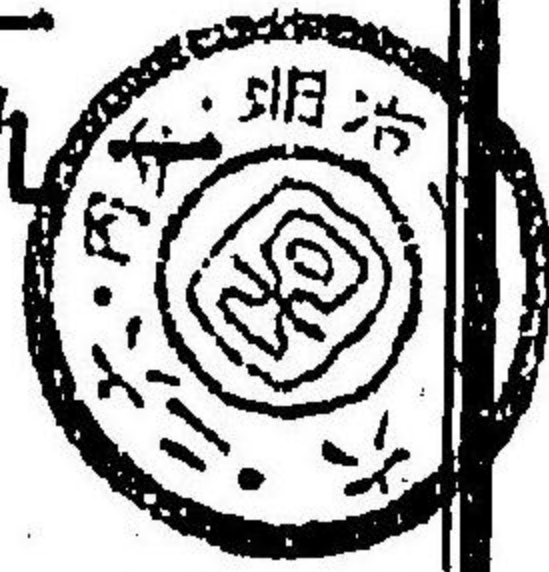
府縣會議員撰舉法罰補則適用規定

府縣制

郡制

決罰罪

九二〇七四四四二二二〇九
二〇七四六四三二八五〇九



法律第三號

(明治二十二年三月十一日)

衆議院議員選舉法

第一章

選舉區畫

第一條 衆議院議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉人ノ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

第三條 一選舉區ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第四條 一市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長ト命シ選舉長トス

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居

シ仍引續キ住居スル者

第三 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被撰人ノ資格

第八條 被撰人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上コシテ撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ撰舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計檢査官收稅官及警察官ハ被撰人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被撰人タルコトヲ得ス

第十一條 撰舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ撰舉區ニ於テ被撰人タルコト

ヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被撰人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ撰舉セラレ當撰ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 選舉人及被撰人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ撰舉人及被撰人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白痴ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 撰舉ニ關ル犯罪ニ由リ撰舉權及被撰權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ撰舉人及被撰人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ跡ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其裁判確定ニ至ルマテ撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス

第五章 撰舉人名簿

第十八條 撰舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ撰舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

撰舉人名簿ハ撰舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ撰舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ区内ノ人名簿ヲ調製シ撰舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 撰舉人其ノ住居スル投票區域外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ撰舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 撰舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル撰舉人名簿ヲ合シ一撰舉區ヲ以テ一冊トシ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 撰舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一撰舉區撰舉人名簿ノ寫ヲ其ノ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ撰舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 撰舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審查シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉区内ニ告示スヘシ

第二十五條 撰舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審查シ必

要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤裁ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルトキハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判官渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ官渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第六章 撰舉ノ期日及投票所

第三十條 撰舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長

之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設ケルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所并ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遲クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ
立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ輪ヲ設ケ其一ハ町村長之ヲ管守シ其一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 撰舉人ハ撰舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ撰舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各々一定ノ式ヲ用テ撰舉ノ當日投票所ニ於テ町村長

ヨリ之ヲ各撰舉人ニ交付スヘシ撰舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被撰人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名往所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 撰舉人ニシテ文字ヲ書スルニト能サル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ撰舉スヘキ撰舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ撰舉人名簿ニ記載セラレヘキ裁判言渡書ヲ所持シ撰舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一撰舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルニト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ撰舉ノ期日マテノ間ニ於テ

適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ撰舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 撰舉會

第四十六條 撰舉會ハ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 撰舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ撰舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日撰舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ數總等トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ撰舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ撰舉長ハ撰舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各撰舉區ノ撰舉人ハ其ノ撰舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲グル投票ハ無効トス

- 一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票セタル者ハ此ノ限ニ在ラヌ
- 二 成規ノ用紙ヲ用ササルモノ
- 三 撰舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被撰人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票コ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ撰舉人又ハ被撰人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用井又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項コ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被撰人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用井タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ撰舉委員ノ意見ヲ聞キ撰舉長之ヲ決定ス此ノ決定コ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ撰舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ヨリ多キ被撰人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超ユタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員コ足ラサルトキハ現コ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

ル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 撰舉長ハ撰舉明細書ヲ作り撰舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ撰舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 投票人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當撰人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當撰人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當撰人定マリタルトキハ撰舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當撰人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當撰人當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當撰ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數撰舉區ノ當撰人トナリタル者當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ撰舉區ノ當撰ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當撰承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當撰ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當撰人ニシテ其ノ當撰ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當撰ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ撰舉ノ期日ヲ定メ其ノ撰舉長ニ命シ再ヒ撰舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當撰ヲ得タル者其ノ當撰ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當撰ヲ失ヒタル者ヲ以テ當撰人ト定ムヘシ

第六十五條 各撰舉區ノ當撰人確定シタルトキハ府縣知事ハ當撰証書ヲ付與シ及管内ニ告示シ并ニ當撰人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補闕撰舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四個年トス但シ任期ヲ終リタル後仍撰舉ニ應スルトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕撰舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ撰舉區ニ限リ臨時撰舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察

官吏ノ處分ニ付スルトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルトコトヲ許サス

第七十一條 撰舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルトコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演説討論及喧譟ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルトコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ従ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ル、コトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルトコトヲ禁シ其姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルトコトヲ得ス

第七十七條 撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ撰舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ撰舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當撰訴訟

第七十八條 各撰舉區ニ於テ當撰ヲ失ヒタル者當撰人ノ當撰ヲ無効トスルノ理由ア

リト認ムルトキハ當撰人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當ナル公債証書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當撰人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當撰訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當撰訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當撰訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當撰訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當撰人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當撰訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納税額年齢住所及其ノ他撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 撰舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 撰舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十五條 撰舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ撰舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲナシタル者及第十四條ニ依リ撰舉人タルコトヲ得サル者投票ヲナシタルトキハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下撰舉權及被撰權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ依テ處斷ス

第一百四條 凡テ撰舉ニ關ル犯罪ハ六ヶ月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及撰舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第一百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此法律ニ規定シタル投票及撰舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ第四條ノ場合ニ於テハ一撰舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此法律ニ規定シタル投票及撰舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第一百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル撰舉區内ニ於ケル撰舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日撰舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル撰舉明細書ハ併セテ投票ノ事故ヲ記載スヘシ
第一百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此法律ニ規定シタル撰舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第一百九條 町村制ヲ施行セザル町村ニ於テハ此法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第一百十條 撰舉人名簿調製ノ初年ニ限リ所得税法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ
第一百十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ進行スルノ時

ニ至ルマテ此法律ヲ施行セズ

法律第四十號 (明治二十三年五月二十九日)

衆議院議員撰舉法罰則補則

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ撰舉人往來ノ途中ニ於テ撰舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ撰舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲メ車馬ノ類ヲ給シ及ヒ其供給ヲ受ケタル者又ハ撰舉人ノ爲ニ撰舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐偽ノ手段ヲ以テ其撰舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被撰人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被撰人タルコトヲ得ヌ又ハ當撰ヲ承諾スルノ意ナシトシテ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 撰舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ撰舉ノ氣勢ヲ張ル爲メ多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用キル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當撰人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員撰舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員撰舉法第一百四條ノ例ニ依ル

勅令第三號

(明治二十三年一月九日)

衆議院議員撰舉法施行規則

第一條 撰舉人ノ年齢ハ撰舉期日(七月一日)ノ前滿二十五歳ニ達スルヲ以テ合格トス

第二條 撰舉法第六條第二ニ掲グル住居ノ期限内ニ撰舉人其住居ヲ府縣外ニ移シ再ヒ其本籍府縣ニ歸住シタルトキハ時日ノ長短ニ拘ハラズ其期限内中斷シタルモノトス但シ旅行中ノ滞在ハ中斷スルノ限ニ在ラズ

第三條 撰舉人及被撰人ノ納稅資格ハ地租ニ付テハ撰舉人名簿調製期日(四月一日)ノ前滿一年以上十五圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及納ムル者ヲ以テ合格トシ所得稅ニ付テハ撰舉人名簿調製期日ノ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ヲ以テ合格トス

賣買讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ日ニ依ルヘシ

滿三年以上所得稅ヲ納メ及滿一年以上地租ヲ納ムル者其地租及所得稅ヲ併セ十五圓以上ニ及フトキハ納稅資格ヲ有スルモノトス但シ所得稅ヲ納ムル者毎年ノ納額ニ差異アルトキハ其最少額ヲ以テ地租ニ併算スヘシ

第四條 質入地ノ地租ハ其地主ノ納稅資格ニ算入スヘシ

第五條 數人共有地ノ地租ハ之ヲ平分シ各個ノ納稅資格ニ算入ス但シ土地臺帳又ハ附屬帳簿ニ所有權又ハ納稅負擔ノ割合ヲ記入シタルモノハ各其割合ニ依ルヘシ

第六條 被撰人ノ年齢ハ撰舉期日ノ前滿三十歳ニ達スルヲ以テ合格トス

被撰人家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ノ納稅資格ハ撰舉法第七條ニ規定シタル撰舉人ノ例ニ同シ

第七條 警視廳ノ官吏ハ撰舉法第十條ノ例ニ依リ東京府内ニ於テ被撰人タルコトヲ得

第八條 郡市ヲ合セ又ハ二郡以上ヲ以テ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ撰舉ノ管理ニ關係スル郡ノ官吏ハ撰舉法第十一條ニ規定シタル市町村吏員ノ例ニ依リ其撰舉區内ニ於テ被撰人タルコトヲ得ス

第九條 撰舉法第十二條ニ掲ケタル神宮トハ神社ニ奉祀スルヲ職トスル者僧侶及敎師トハ敎規若クハ宗制ニ從ヒ其分限ヲ有スル者其他何等ノ宗教ヲ問ハス宣敎ニ從事スル者ヲ謂フ

第十條 組合町村ニシテ一ノ町村役場ヲ置クトキハ其組合町村ヲ以テ一投票區域トス

撰舉法第十九條第一ノ場合ニ於テ一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一撰舉區ト爲シタルトキハ其撰舉一區ヲ以テ一投票區域トス

撰舉法第十九條第二ノ場合ニ於テ市内ニ在ル數區ヲ合セテ一撰舉區ト爲シタルトキハ其撰舉區ヲ以テ一投票區域トス

撰舉法第十九條第三ノ場合ニ於テ郡市ヲ合セテ一撰舉區ト爲シタルトキハ郡ハ町村ヲ以テ一投票區域トシ市ハ其市ヲ以テ一投票區域トス

第十一條 撰舉人名簿ニハ撰舉人ヲ其姓ノ伊呂波順ニ記載シ番號ヲ付スヘシ

第十二條 撰舉人正當ノ事故ニ依リ撰舉法第二十條ノ手續ヲ爲スコト能ハスレテ撰舉人名簿ニ記載セザルハ其第三十三條ノ例ニ依リ脱漏ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十三條 撰舉長ノ判定ニ對スル出訴若ハ陪審裁判所ノ判決ニ對スル上告ハ爲メニ其判定又ハ判決ヲ執行ヲ停止セズ

第十四條 撰舉人名簿確定ノ後撰舉人其投票區域外ニ轉住シタルトキハ前住地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第十五條 投票ヲ始ル時刻ニ至リ立會人參會セサルトキハ投票所管理者ハ參會シタル撰舉人中ヨリ更ニ立會人ヲ指定スヘシ

第十六條 投票所管理者ハ投票所入場券ヲ製シ遅クトモ投票期日ノ五日前ニ之ヲ各撰舉人ニ配付スヘシ

入場券ノ配付ヲ受ケサル撰舉人ハ之ヲ請求スルコトヲ得此ノ規則第十四條ニ依リ投票ヲ爲サントスル者ハ前項ノ例ニ依リ入場券ヲ請求スルコトヲ得

入場券ニハ撰舉人ノ住所姓名撰舉人名簿ニ記載シタル番號及投票ノ場所日時ヲ記載スヘシ

第十七條 撰舉人投票所ニ入ルトキハ入場券ヲ受付掛ニ差出スヘシ撰舉人多數ナル投票所ニ於テハ必要ナルトキハ到着番號札ヲ受取ラシムヘシ

第十八條 撰舉人入場券ヲ紛失シタルトキハ其由ヲ受付掛ニ申立テ投票所管理者ノ承認ヲ得テ入場スルコトヲ得

第十九條 投票所管理者ハ選舉人ヲ呼出シ其住所姓名ヲ自稱セシメ撰舉人名簿ニ對

照シ投票用紙ヲ交付スヘシ若シ到着番號札ヲ受取ラシメタル場合ニ於テハ到着番號ノ順序ニ從ヒ番號札ト引換ヘコ投票用紙ヲ交付スヘシ

第廿一條 選舉人誤テ投票用紙ヲ汚染シタルトキハ更ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第廿二條 投票ハ投票所管理者及立會人ノ面前ニ於テ選舉人自カラ之ヲ投票函ニ投入シ順次投票所ヨリ退出スヘシ

第廿三條 投票終ルノ時刻ニ至リタルトキハ投票所管理者ハ其由ヲ宣告シ一時入口ヲ閉鎖セシメ參會シタル選舉人中未投票セサル者アルトキハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第廿四條 選舉長ハ各投票所ノ投票函總テ到達シタル翌日選舉法第四十八條ノ手續ヲ爲シ逐次投票ヲ開披點檢シテ選舉委員ニ付シ每票先ツ選舉人ノ姓名次ニ被選人ノ姓名ヲ朗讀セシメ書記二名以上ヲシテ被選人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第廿五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉長ハ各被選人ノ得點總數ヲ朗讀スヘシ

第廿六條 點檢濟ノ投票ハ其有効無効ヲ區別シテ封緘シ選舉長ハ選舉委員ト共ニ之ニ捺印スヘシ

連名投票ニシテ其一部無効ナルモノハ無効投票ト共ニ保存スヘシ

第廿六條 天災若シハ其他避クベカラザル事故ニ依リ投票ヲ行フコトヲ得ス又ハ選舉會ヲ開カシムヘシ但シ其期日ハ遲クトモ五日以前ニ投票區域内又ハ選舉區内ニ告示セシムヘシ

第廿七條 與會ヲ開クコトヲ得サルトキハ投票所管理者又ハ選舉長ハ其施行ヲ止メ府縣知事ニ其由ヲ届出スヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ期日ヲ定メ更ニ投票ヲ行ハシメ又ハ選舉會ヲ開カシムヘシ

第廿八條 其ノ當撰ヲ辭シ又ハ第六十三條ノ期限内ニ其承諾ヲ届出サルトキハ生年月ノ差ニ依リ當撰ヲ失ヒタル者ヲ以テ當撰人ト定ムヘシ

第廿九條 撰舉法第五十二條ノ撰舉長ノ決定ニ對シ異議アル者又ハ第七十六條ノ投票所管理者ノ決定ニ對シ不服ナル者ハ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ撰舉法第二十六條ノ例ニ依ル

第三十條 撰舉長及投票所管理者故障アルトキハ其附屬ノ官吏又ハ吏員ヲシテ其事務ヲ代理セシムルコトヲ得

內務省訓令第二號 (明治二十二年一月十七日)

府 縣 沖繩縣

衆議院議員撰舉法及撰舉法施行規則ニ就テハ其事務及書式等左ノ各條ニ準據シ取扱

フヘシ

第一條 衆議院議員撰舉法第十八條ノ撰舉人名簿ハ別紙第一號ノ式ニ依リ開製スヘシ

第二條 投票所管理者ハ遅クモ投票期日ノ五日前ニ投票紙ヲ指定シ之ヲ其投票區域内ニ公告スヘシ

第三條 投票所管理者ハ撰舉法第三十三條ニ依リ立會人ヲ定メ之ヲ本人ニ通知スルトキハ其指定シタル立會人ノ内若シ正當ノ事故ニ依リテ其職ヲ辭スル者アルモ仍ホ投票期日ノ三日前更ニ立會人ヲ指名スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存シテ之ヲ通知スヘシ但臨時已ムヲ得サル事故ニ由リ投票期日ノ一兩日前ニ至リ其職ヲ辭スル者アルキハ撰舉法施行規則第十五條ニ依リ投票ノ當日投票所ニ參會シタル撰舉人中ヨリ之ヲ指名スヘシト雖モ投票所管理者ハ豫メ其當日指名セントスル者ヲ定メ前以テ之ヲ其本人ニ通牒シ置キ投票ヲ始ムル前ニ參會セシメ臨時指名スルニ差支ナカラシムルヲ要ス

第四條 投票用紙投票函入場券及到着番號札ハ別紙第二號第三號第四號ノ式ニ依リ

第五條 投票所ハ寺院若シハ學校等ノ如キ可成門戸アル場所ヲ以テ投票所ニ充ツ

第六條 投票所ノ開閉ハ鐘鼓ヲ以テ之ヲ報スヘシ

投票所ハ午前六時三十分ニ其門戸ヲ開キ午後六時ニ之ヲ閉シヘシ

第七條 投票所ハ別紙第五號甲乙ノ式ヲ標準トシ撰舉人員ノ多少ニ因テ適宜之ヲ斟酌シ受付所撰舉人扣所投票用紙交付所投票記載所投票ノ場所等ヲ區別シ之ヲ設クヘシ

第八條 午前七時ニ於テ投票所管理者ハ參會シタル撰舉人ヲ投票用紙交付所ノ入口ニ召集シ撰舉法第三十六條ニ因リ立會人ト共ニ投票函ノ空虛ナルコトヲ撰舉人ニ示シ且撰舉人ノ面前ニ於テ其第一蓋ノ錠ヲ卸シ之ヲ投票所管理者及立會人列席ノ卓上ニ置キタル後到着番號ノ順序ニ依リ適宜撰舉人數名ツ、ヲ呼出シ投票用紙交付所ニ入ラシメ撰舉法施行規則第十九條ノ手續ヲ爲シ投票用紙ヲ交付スヘシ

第九條 撰舉人ニ投票用紙ヲ交付シタルトキハ投票記載ノ爲メニ設ケタル卓上ニ於テ記載セシメ直ニ投票ヲ爲サシムヘシ

投票記載ノ爲メニ設ケタル卓上ニハ呼入レタル各撰舉人遲滞ナシ記載シ得ル丈クニ數個ノ筆硯墨ヲ備ヘ置クヘシ

第十條 撰舉人出入ノ門戸及投票所出入口等ハ警察官吏又ハ特ニ設ケタル取締人ニ於テ取締ヲ爲スヘシ

第十一條 投票函ヲ閉鎖ストキハ直ニ其第二蓋ノ錠ヲ卸シ其第一蓋ノ輪ハ立會人

ニ於テ保管シ第二蓋ノ輪ハ投票所管理者之ヲ保管スヘシ

第十二條 投票明細書ハ別紙第六號書式ニ因リ之ヲ製スヘシ

第十三條 撰舉法施行規則第二十三條ニ因リ被撰人ノ得點ヲ記入スヘキ點數簿ハ別紙第七號ノ式ニ依リ之ヲ調製シ其記入毎ニ之ヲ記入スル書記ノ一人其被撰人ノ點數ヲ呼フヘシ

第十四條 撰舉明細書ハ別紙第八號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

撰舉明細書ハ副本ヲ製シ撰舉人又ハ被撰人ノ請求アリタルトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

第十五條 撰舉法第六十五條ニ因リ府縣知事ヨリ當撰人ニ付與スヘキ當撰証書ハ別紙第九號ノ式ニ依ルヘシ

第十六條 投票所ハ何郡(市區)何町村投票所ト記シ撰舉會場ハ衆議院議員第何區撰舉會場ト記シ各其門戸ニ之ヲ掲クヘシ
(書式ハ別ニ頒ツ) (書式見ス)

法律第六號 (明治二十二年二月二十六日)

府縣會議員撰舉規則

第一條 府縣知事ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ撰舉人名原簿ヲ調査シ其副本

ヲ十月二日迄ニ郡長ニ差出スヘシ
撰舉人名原簿ニハ撰舉人ノ姓名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額并ニ其納稅地ノ記載スヘシ

第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

撰舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會規則第十三條ノ年齡及ヒ年限ヲ算スルハ撰舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財產ヲ相續シタル者ハ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 撰舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムル時ハ其納稅地區戶長ノ證狀ヲ添ヘ撰舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戶長ニ届出ヘシ前項ノ届出ヲ爲サ、ル納稅額ハ撰舉及ヒ被撰舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ撰舉人名原簿及ヒ撰舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ

於テモ其調製シタル原簿ヲ寫テ示スヘシ

第七條 撰舉資格ナル者ハ撰舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其中立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラス速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サス但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 撰舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置テモ之ヲ但裁判官渡ニ依テ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其旨渡ヲ受ケタルトキハ其日ヨリ二十四時間以内ニ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ

當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ハ離モ撰舉ヲ行フ前ニ於テ撰舉權ヲ失ヒ若クハ撰舉權ヲ有サザラシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

第十四條 撰舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕撰舉ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 議員ヲ撰舉スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、撰舉開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻、撰舉ヲ行フヘキ郡區長ハ其名及ヒ撰舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補闕員ノ増撰ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

撰舉開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ撰舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ撰舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日撰舉會場ニ參會セシムヘシ

選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ選舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セザルトキハ參會ノ選舉人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第十八條 那區長ハ選舉會長トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ那區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

選舉會書記ハ那區長ニ於テ那區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 選舉人ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時アリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 選舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ選舉錄並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ投票函ハ投票ニ先テ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各那區ニ於テ一定ノ式ヲ用井投票當日選舉會場ニ備置キ選舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ用紙ハ正議員ノ外補議員増撰ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙三種ニ分テ甲種ハ正議員ニ爲メ用紙並爲シ乙種ハ補議員ノ爲メ用紙ト爲スヘシ

第二十二條 選舉人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ並ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セララレキ裁判官渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧噪ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サザムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルコトヲ得

選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得
第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉
會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一
時選舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未ダ投票セサリシ者ナキヤヲ以テシ
若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿三冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘ
シ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投
票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之レヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏
名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘ
シ

前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモ
ノハ其部ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ヲ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得
點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入并ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會長并ニ立會人ノ面前ニ
於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多
數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤
ヲ用ヒ其當撰ヲ定ムヘシ但即時ニ其當撰ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調
査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得

分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當撰ヲ定ムルモノトス

當撰タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次
其次點者ヲ以テ當撰ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當撰者ノ氏名ト共ニ其事
由ヲ告示スヘシ

當撰タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當撰ヲ定メ難キトキ
ハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢簿ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉會長立會人并ニ書記之ニ捺印
スヘシ

前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ選舉ニ關
シ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存ス
ヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ撰舉録中ニ記入スヘシ

- 一 撰舉開會ノ月日并ニ時刻
 - 二 撰舉會長及ヒ書記ノ氏名
 - 三 立會人ノ住所氏名
 - 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其顛末
 - 五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其顛末
 - 六 投票函閉鎖ノ時刻
 - 七 各被撰舉人ノ得點數
 - 八 當撰人ノ住所氏名若シ直ニ當撰ヲ定メ難キトキハ其事由
 - 九 撰舉閉會ノ時刻
 - 十 右ノ外撰舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項
- 當撰ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ
- 第四十條 撰舉録ニハ撰舉會長立會人并ニ書記之ニ署名捺印スヘシ
- 第四十一條 當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被撰舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ
- 若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル
- 第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

- 一 撰舉人名簿ニ記載ガキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス
 - 二 成規ノ用紙ヲ用エサルモノ
 - 三 撰舉人又ハ被撰舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
 - 四 撰舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
 - 五 撰舉人被撰舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス
 - 六 被撰舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被撰舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
 - 七 被撰舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被撰舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
- 第四十三條 投票ニ記載ノ被撰舉人其撰舉スヘキ定數ニ足ラサルモノ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七ニ觸ル、モノアルト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ
- 一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ
- 第四十四條 選舉人又ハ被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其ノ投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力の有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ撰舉會長之ヲ決定スヘシ其ノ決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ撰舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ己ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會ヲ設クルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セズト雖モ撰舉人名簿中ニ各選舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會所屬ノ區域并ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ又本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續會場ノ取締選舉錄ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシテ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ選舉會長及ヒ書記ノ中少クハモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選舉人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待テ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サルトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條 撰舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補選員ヲ増撰スルトキハ其撰舉ハ正議員撰舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補選員ノ撰ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補選員當選ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ撰舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ

二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ハ被撰舉權ヲ有セザルコトヲ發見スルトキ

ハ府縣知事ハ其當撰ヲ取消シ其次者ヲ以テ當撰ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 撰舉全會ヲ取消シ更ニ撰舉ヲ命スルハ其撰舉ノ撰舉規定ニ違フ場合ニ限ル但規定ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ撰舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキモノハ取消ノ限ニアラス

撰舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納税額年齢其他撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ撰舉人名簿ニ記載セラルタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス其被撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當撰者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當撰者ト爲リタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第三百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲レ又ハ投票ヲ爲

レタル者モ亦同シ

第六十一條 武器又ハ兇器ヲ携帶シテ撰舉會場ニ入りタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ撰舉人ヲ脅嚇スル者又ハ撰舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留シ毀壞若クハ却奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多衆ヲ集メテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知り嘯集ニ應シタルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當撰者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當撰ハ無効トス

第六十六條 撰舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 撰舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ牴觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附 則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ハラズ撰舉人名原簿ヲ及ヒ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ前項ノ名簿調製前議員ノ撰舉ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他ハ總テ本規則ニ依ルヘシ
島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

法律第二十八號 (明治二十二年十一月七日)

議會並議員保護規定

第一條 法律ヲ以組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月

以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第四條 議員ノ職ヲ辭セシメタルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

法律第三十九號 (明治廿三年五月廿九日)

市町村會議員撰舉罰則

第一條 凡テ撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
議員ナルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉會場ノ近傍若クハ撰舉人往來ノ途中ニ於テ撰舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ撰舉會場ニ往復スル爲メ車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス
其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ノ爲メ撰舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス
其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其撰舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シ以テ若クハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 撰舉人ヲ脅逼シ若クハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ切奪シ又ハ其目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 撰舉ノ際撰舉ニ關スル吏員若クハ撰舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ切奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 撰舉會場所在ノ郡市内ニ於テ撰舉ノ氣勢ヲ張ル爲メ多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍ホ其命ニ從ハサル者ハ十

五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被撰人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被撰人タルコトヲ得ス又ハ當撰ヲ承諾スルノ意ナシトノ虛報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ撰舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ撰舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當撰人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當撰ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノ、外刑法ニ正條アルモノハ各々其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制并ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開説スル各種ノ議會ノ議員撰舉ニモ適用ス

法律第四十一號

(明治廿三年五月廿九日)

明治廿二年二月法律第六號府縣會議員撰舉規則ニ依ル撰舉ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員撰舉法附則ヲ適用ス但其第二條第一項ニ衆議院議員撰舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員撰舉規則第六十二條其ノ第二條第二項ニ衆議院議員撰舉法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員撰舉規則第六十三條ヲ適用スルモノトス

府縣會議員撰舉規則中此法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セス

法律第三十五號

(明治二十三年五月十七日)

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣境界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ府縣境界モ亦自ラ變更スルモノトス

本條ノ處分ニ付其財産處分ヲ要スルトキハ内務大臣之ヲ定ム但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二章 府縣會

第二條 府縣會ハ府縣内郡市ニ於テ撰舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

郡市ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但各郡市ヲシテ少
クトモ一人ノ議員ヲ選舉セシムヘシ

第三條 府縣會議員ノ選舉ハ市ニ在テハ市會及市參事會同シ市長ヲ會長トシ郡ニ在
テハ郡會及郡參事會同シ郡長ヲ會長トシ左ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但會長ハ
投票ニ加ハラサルモノトス

一 投票ハ選舉人自ラ會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス
投票ハ匿名トス

二 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被撰人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被撰權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被撰人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此
限ニアラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被撰人ニ付テハ仍其効アリト
ス

三 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取
ル

第四條 府縣內市町村ノ公民中選舉權又存シ其府縣ニ於テ一年以來直接國稅十圓以
上ヲ納ムル者ハ府縣會ノ被撰權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲メ市町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同府縣內ニ在リ且他ノ要
件ヲ失ハサルトキハ仍府縣會ノ被撰權ヲ有ス

其府縣會ノ官吏及有給吏員神官諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ府縣會議員タルコトヲ
得ス

前項ノ外ノ官吏ニシテ當撰シ之ニ應セントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ
府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼スルコトヲ得ス

第五條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ每二年其半數ヲ改撰ス若其員數
二分シ難キトキハ初會ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初會ニ於テ解任スヘキ者ハ

府縣會議長府縣會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム
解任ノ議員ハ再撰セラルコトヲ得

第六條 議員中闕員アルトキハ遲クトモ六個月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第七條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遲クトモ
選舉ノ日ヨリ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

第八條 選舉ヲ終リ當撰人ノ定マリタルトキハ郡長市長ハ直ニ當撰人ニ通知シ及府

縣知事ニ報告スヘシ
當撰人其當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當撰ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

一人ニシテ數個所ノ撰舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ撰舉ニ應スヘキコトヲ府縣知事ニ届出ヘシ

前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ルトキハ總テ撰舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

第九條 當撰人其當撰ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ府縣知事ハ其郡市ヲシテ十日以内ニ更ニ撰舉ヲ行ハシムヘシ

第十條 當撰人確定シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當撰證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第十一條 撰舉人撰舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ撰舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ルコトヲ得

第十二條 當撰人其當撰ノ際資格ノ要件ヲ有セサリシコト發覺スルトキハ其當撰ヲ無効トス

當撰人當撰後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第十三條 府縣會議員於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ府縣知事ニ通知スルコトヲ得

第十四條 府縣會議員被撰權ヲ有無及撰舉ノ効力ハ府縣參事會之ヲ裁決ス府縣參事會ノ裁決不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 府縣會議員ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 府縣ノ歳入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ヲ認定スル事

三 府縣稅ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四 府縣有不動産ノ賣買交換讓渡受并ニ質入借入ノ事

五 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

六 府縣有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事

其他法律命令ニ依リ府縣會議ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第十六條 府縣會議ハ其權限ニ屬スル事件ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第十七條 府縣會議ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

府縣會議ハ其府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付府縣知事又ハ内務大臣ニ建議スルコトヲ得

員ノ任期ニ從フ

議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時議長ヲ互撰スヘシ

第二十條 府縣知事若クハ特ニ知事ノ委任ヲ受ケタル府縣ノ官吏若ハ吏員ハ府縣會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ

第二十一條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク通常會ノ會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限リ七日以内ヲ會期トシテ臨時會ヲ開クコトヲ得府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニアラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第二十二條 府縣會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 府縣會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十四條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ府縣會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十五條 府縣會ニ於テ撰舉ヲ行フコトキハ第三條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員五名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用キスシテ其可否ヲ決スヘシ

第二十七條 東京府京都府大坂府府會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノト專ラ其他ノ部分ニ關スルモノト分別スルコトヲ要スルモノアルトキハ府會ノ議決ニ依リ之ヲ分別スルコトヲ得

前項ノ分別ニ依リ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノハ其郡部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其他ノ部分ニ關スルモノハ市部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス此場合ニ於テハ郡部議員市部議員ニ於テ各臨時議長ヲ互撰スヘシ

此法律中東京府京都府大坂府會ノ市部議員トアルハ東京市京都市大阪市市會ニ於テ撰舉シタル議員ヲ云ヒ郡部議員トアルハ東京市京都市大阪市ヲ除キ其他ノ部分ニ於テ撰舉シタル議員ヲ云フ

第二十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及撰舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ并ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第三十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退去セシムルコトヲ得
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第三十一條 議員中議場ノ秩序ヲ紊ルコト二回以上ニ及フ者アルトキハ議長又ハ議員ノ發議ニ依リ議會ノ議決ヲ以テ七日以内其出席ヲ停止スルコトヲ得

第三十二條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退場セシムルコトヲ得
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第三十三條 府縣知事若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第三十四條 第三十條第三十二條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲府縣知事東京府ハハ警視總監東京府ハハ每會期警察官ニ議場掛事務ヲ命スヘシ

第三十五條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム書記ハ議長之ヲ

撰任

第三十六條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及撰舉ノ顛末并ニ出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前議會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第三十七條 府縣會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ内務大臣ノ認可ヲ受テ之ヲ施行スヘシ

第三章 府縣參事會吏員及委員

第三十八條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トス郡部議員ニ於テ其議員中ヨリ四各ヲ互撰ニ市部議員ニ於テ其議員中ヨリ四名ヲ互撰スヘシ

縣ノ名譽職參事會員ハ四名トス縣會ニ於テ其議員中ヨリ之ヲ互撰スヘシ

第三十九條 府縣參事會員タル高等官ハ府縣廳ニ奉職ノ高等官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

第四十條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ高等官會員之ヲ代理ス

第四十一條 府縣會ハ每通常會ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員府ハ八名縣ハ四名ヲ

互撰シ其名譽職參事會員ノ闕員アルトキハ府縣知事ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十二條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時其撰舉ヲ行フヘシ

第四十三條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決ヲ爲ス事

三 府縣會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ府縣有財産ノ管理又ハ造營物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

四 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

五 府縣知事及其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事

六 府縣知事ヨリ發スル府縣會議案ニ付府縣知事ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事

事

七 臨時必要アルトキ府縣ノ出納ヲ檢査スル事

其他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第四十四條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

第四十五條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 府縣參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但第四十三條第二ノ議決ヲ爲ストキハ高等

官會員ハ其議決ニ加ハラサルモノトス

府縣參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第四十七條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付

府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ

補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ該事件ニ關係

ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第三十八條ノ定數

ニ滿タシムヘシ

第四十八條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二府縣以上ノ郡市町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其事件ヲ管轄スヘキ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第四十九條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京都市大阪市外ノ市町村若ハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス此法律中東京府京都府大阪府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ市部議員ニ於テ撰舉シタル名譽職參事會員ヲ云ヒ郡部名譽職參事會員トアルハ郡部議員ニ於テ撰舉シタル名譽職參事會員ヲ云フ

第五十條 府縣知事ハ府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ施行シ及府縣有財產及營造物ヲ管理シ并ニ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス府縣ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ知事ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ前項ノ文書中府縣會又ハ參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ總テ其旨ヲ記入スヘシ

第五十一條 府縣會ニ於テ名譽職參事會員ヲ撰舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集

ニ應セサトルキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル迄府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

非常事變ニ際シ府縣參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ府縣會會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十二條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ費用ヲ以テ府縣有財產若ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得但府縣吏員ハ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

府縣吏員ノ給料手當退隱料等ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ府縣事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ府縣有財產及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得其撰舉又ハ撰任ノ方法及任期ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル委員ハ名譽職トス

第四章 府縣ノ會計

第五十四條 府縣有財產及營造物管理ノ費用府縣會府縣參事會及委員ノ費用府縣吏

員ノ給料退隱料其他諸給與及從來法律命令若シハ慣例ニ依リ并ニ將來法律勅令ニ依リ府縣ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ府縣ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第五十五條 名譽職參事會員及委員ニハ旅費滞在手當及出務日當ヲ給スルコトヲ得府縣會議員ニハ旅費及滞在手當ニ限リ之ヲ給スルコトヲ得但滞在手當出務日當ヲ併セ一日一圓五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十六條 府縣ノ支出ハ府縣稅其他府縣ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條 府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外從前地方稅ニ關スル規定ニ依ル

第五十八條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其府縣ノ全部若ハ市制施行ノ地ニ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

第五十九條 府縣内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舖ヲ定メテ營業ヲ爲ス者ハ其土地家屋營業ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラズ

第六十條 府縣稅ノ賦課ニ付テハ納稅者カ其府縣外ニ於テ店舖ヲ定メタル營業ノ收

入ヲ其標準ニ算入スルコトヲ得ス

第六十一條 府縣會ハ各市町村内ニ於テ徵收スル府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項市町村會ノ議決ハ法律命令又ハ府縣會ノ議決ニ牴觸スルコトヲ得ス
市町村會ニ於テ府縣會ノ指定シタル期限内ニ其議決ヲ爲サハルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第六十二條 營業ノ狀況又ハ收入ヲ標準トシテ賦課スル府縣稅ニ付テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ賦課額調査ノ爲メ其府縣内郡市ニ調査委員ヲ置クコトヲ得

第六十三條 府縣稅ノ免除ハ市町村稅免除ノ規定ニ依ル
第六十四條 府縣會ハ府縣内郡市町村ノ土工工事又ハ府縣内ノ教育衛生勸業及慈善ノ事業若ハ營造物ニ對シ補助金ヲ與フルコトヲ議決スルコトヲ得

第六十五條 府縣會ハ家屋稅又ハ戶數割ノ全部又ハ一部ノ代納トシテ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニ對シ夫役又ハ現品ヲ出スヲ許スコトヲ議決スルコトヲ得

第六十六條 府縣稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但日割ヲ以テ徵收スルモノハ此限ニ在ラス
納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ當該官廳ニ届出ヘシ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スヘシ

物件ヲ目的トシテ納期ヲ定メテ一定ノ額ヲ賦課スル府縣稅ハ其納期ニ於テ納稅義務ヲ負フ者其額ヲ納ムヘシ

府縣稅ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル場合ト雖之ヲ還付セス但其義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其前納期限ノ終迄納稅セサルモノトス

第六十七條 府縣稅ハ法律命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除クノ外各市町村長ニ於テ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

第六十八條 府縣稅ノ賦課ニ對シ錯誤アルコトヲ發見シタル者ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ其傳令書ヲ發シタル廳ニ申立ルコトヲ得但申立ノ爲其納稅ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十九條 前條ノ申立ヲ爲シタル後二十一日以内ニ其更正ヲ得サルトキ又ハ其更正ヲ得ルモ之ニ不服ナルトキハ十四日以内ニ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ其裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但市ニ在テハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十條 府縣稅ノ免稅若ハ納稅延期ハ特別ノ事情アルモノニ限り府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

府縣稅ノ滯納處分ハ國稅滯納處分法ニ依ル

第七十一條 東京府京都府大坂府ニ在テハ府ノ支出ニ充ツヘキ府稅ヲ市部及郡部ニ分賦ス其分賦ノ割合ハ府會ニ於テ之ヲ議決ス内務大臣ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ前項市部ノ分賦額ハ市ニ於テ之ヲ市ノ豫算ニ編入シ市稅トシテ徵收シ其總額ヲ府金庫ニ納ムヘシ郡部ノ分賦額ハ此法律ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス但市部議員ハ其徵收ニ關スル議事ニ參與シ及議決ニ加ハラサルモノトス此場合ニ於テ若議長副議長市部議員ナルトキハ郡部議員ニ於テ臨時議長ヲ互撰スヘシ

七十二條 市制施行ノ府縣ニ在テハ郡廳舎建築修繕費郡吏員給料旅費及廳費ハ市ヲ除キ其他ノ部分ノミヲシテ其負擔ニ任セムヘシ

前項ノ府縣ニ在テハ其府縣ノ支出費目中市ト其他ノ部分ト利害ノ厚薄ヲ異ニシテ均一ノ負擔ニ任セムルコトヲ得サルモノアルトキハ其費目ニ限り其一方ノ負擔ヲ增加スルコトヲ得但負擔ノ割合ハ府縣會ニ於テ之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ若シ之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ確定ス

第一項ノ負擔ニ任セシメ及第二項ニ依リ一方ノ負擔ヲ增加スルハ賦課ノ稅率ヲ增加スルニ止メ其會計ヲ異ニスルコトヲ得ス但東京府京都府大坂府ニ在テハ前條ニ依ル

前項ニ依リ稅率ヲ增加スヘキ稅目ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

第七十三條 府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ府縣會ノ議決ニ依リ該部分ニ對シ通常府縣稅賦課ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ增加スルコトヲ得

第七十四條 府縣ハ其舊債元額ヲ償還スル爲又ハ天災事變ノ爲己ムヲ得サル支出又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ府縣ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣會ノ議決ヲ以テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

府縣債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

歲入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但府縣參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第七十五條 府縣知事ハ毎年其翌年度ニ係ル歲入出豫算ヲ調製スヘシ但府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ豫算ハ府縣會ノ議決ニ付スルノ前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若府縣知事ト府縣

參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ知事ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ并ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七十六條 豫算ハ毎年府縣會ノ議決ヲ取リ之ヲ內務大臣ニ報告シ并ニ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ其府縣有財產表ヲ提出スヘシ

第七十七條 歲入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ己ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第七十八條 府縣ノ收支命令ハ府縣知事之ヲ發スヘシ

第七十九條 會計事務ヲ管理スル官吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラ

サルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
第八十條 決算ハ會計事務ヲ管理スル官吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ府縣參事會ヲシテ之ヲ檢査セシメ次回ノ通常府縣會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書并コ之ニ關スル府縣會ノ議決ハ府縣知事ヨリ之ヲ内務大臣ニ報告シ并ニ決算ハ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第八十一條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第八十二條 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ内務大臣ニ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
第八十三條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ内務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ并ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納檢閲スルノ權ヲ有ス

第八十四條 府縣會又ハ府縣參事會ノ議決公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メザルトキハ直ニ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ超エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ其議決ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ府縣知事ノ處分ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ府縣ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但内務大臣ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十六條 府縣會招集ニ應セス又ハ成立セザルトキハ府縣知事ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ
第八十七條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ招集前正當ノ手續ヲ以テ告知セラレタル議案ヲ第二十一條第一項ニ定メタル期限内ニ議了セサル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ

其狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セス又ハ議了セサル議案歳
入出豫算ニ係リ内務大臣ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ
於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十八條 内務大臣ハ府縣ノ歳入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ
之ヲ削除シ及其府縣ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若
ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺
スヘシ

第八十九條 府縣會ノ解散ハ勅令ヲ以テス此場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ改撰
スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス
府縣會解散ノ後改撰了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ專
決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第九十條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコ
トヲ要ス

- 一 新ニ府縣債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事
- 二 地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ土地ニ賦課スル事

三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第九十一條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 府縣有不動産ノ賣却讓渡并ニ質入書入ノ事
- 二 第七十二條第二項ニ依リ市若クハ其他ノ部分ノ負擔ヲ増加スル事
- 三 第七十三條ニ依リ府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事
- 四 第七十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第九十二條 行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ行政裁判所ニ屬スル職務ハ
現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十三條 市制町村制施行ノ爲定ムル直接稅ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦之
ヲ適用ス

市制町村制郡制及此法律施行ノ爲將來ノ諸稅ニ付直接稅ト爲スヘキモノハ内務大
臣及大藏大臣之ヲ告示スヘシ

第九十四條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時
期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十五條 此法律施行ノ後ハ市制第二百二十二條第三ニ定ムル附加稅徵收ノ許可ハ
東京市京都市大崎市ニ在テハ地租七分ノ三、二五(二十八分ノ十三)其他ノ市ニ在テ

ハ其七分ノ一、五(十四分ノ三)ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス

第九十六條 府縣内ニ在ル嶋嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ク

郡制ヲ施行セサル嶋嶼ヨリ撰出スヘキ府縣會議員ノ撰舉ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第九十七條 明治十三年四月第十五號布告府縣會議規則明治十四年二月第八號布告區郡部會議規則明治二十二年二月法律第六號府縣會議員撰舉規則其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ府縣ニ於テ其ノ施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十八條 內務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ

法律第三十六號

(明治二十三年五月十七日)

郡制

第一章 總則

第一條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ郡界モ亦自ラ變更スルモノトス

第二條 郡内ノ町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ郡内ノ町村ト爲スハ其市會町村會ノ申請ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第三條 第一條第二條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二章 郡會

第四條 郡會ハ郡内町村ニ於テ撰舉シタル議員及大地主ニ於テ撰舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 町村ニ於テ撰舉スヘキ郡會議員ノ數ハ每町村各一名トス

郡會議員ノ數二十名以上ニ及フトキハ二十名ヲ以テ制限トス此場合ニ於テ議員配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

郡會議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經其數ヲ増シテ十名ニ至ルコトヲ得其配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

本條議員配當法ハ郡内ノ町村數ニ増減アリタル場合ノ外初回ハ三年間爾後ハ十二年以上ニ至リ町村ノ人口ニ著シキ増減アルニ非サレハ改正セサルモノトス

議員配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改撰スヘシ

第六條 一町村ニ於テ一名以上ノ議員ヲ撰舉スルハ其町村會之ヲ行ヒ數町村ニ於テ一名若ハ一名以上ノ議員ヲ撰舉スルハ其各町村會會同シテ之ヲ行フヘシ

第七條 町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ第四

條乃至第六條ノ規定ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視シ其組合會ニ於テ議員撰舉ヲ行フヘシ

第八條 大地主ハ町村ニ於テ撰舉スヘキ議員定數ノ外其定數ノ三分ノ一ヲ互撰スルモノトス若端數ヲ生スルトキハ之ヲ棄却スヘシ

撰舉ヲ行フコトヲ得ヘキ大地主ニシテ其員數町村ニ於テ撰舉スヘキ議員定數ノ三分ノ一以下ナルトキハ其大地主ハ撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期改撰ノ期限内ニ於テハ大地主ノ員數減シテ三分ノ一以下ニ至ルト雖解散ノ爲改撰スル場合ヲ除クノ外ハ本項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第九條 大地主トハ郡内ニ於テ町村税ノ賦課ヲ受クル所有地ニシテ地價總計一萬圓以上ヲ有スル地主ヲ云フ

第十條 郡内町村公民ニシテ町村會ノ撰舉ニ參與スルコトヲ得ヘキ者及大地主中自ラ撰舉ニ加ハルコトヲ得ヘキ者ハ總テ郡會ノ被撰權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同郡内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍郡會ノ被撰權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ撰舉ニ係ルト否トヲ問ハス郡會議員タルコトヲ得ス

一 所屬府縣并ニ其郡ノ官吏

二 其郡ノ有給吏員

三 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當撰ニ應ジ又ハ第八條第三項ノ權利ヲ行ハントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 大地主ニシテ撰舉權ヲ有スルハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル男子ニ限ル年齢二十歳未満ノ者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ撰舉權ヲ有セサルモノトス

大地主ノ撰舉權ハ身代限處分中又ハ租稅滯納處分中又ハ公權ノ剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲裁判上ノ訊問若ハ勾留中ハ之ヲ停止ス

本條ノ規定ハ撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タル者ニモ適用ス

第十二條 撰舉權ヲ有スル大地主ハ代人ヲ以テ撰舉ヲ行フコトヲ得

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ代人ヲ以テスルニ非サレハ撰舉ヲ行フコトヲ得ス

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ町村制ニ定メタル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ以テ代理ノ證トスヘシ

本條ノ規定ハ第八條第二項ノ權利ヲ行フ場合ニモ適用スルモノトス但其代人ハ郡會ニ被撰權ヲ有スル者ニシテ郡會議員タラサル者ニ限ル

第十三條 郡會議員ハ名譽職トス

町村ニ於テ撰舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ毎三年其半數ヲ改撰ス若其員數二分

シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム
初回ニ於テ解任スヘキ者ハ郡會議長郡會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム
大地主ニ於テ撰舉セタル議員ノ任期ハ三年トシ毎三年其全數ヲ改撰ス
解任ノ議員ハ再撰セラルコトヲ得

第十四條 議員中議員アルトキハ過クモ六箇月以内ニ補闕撰舉ヲ行フヘシ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十五條 郡長ハ郡會議員改撰前撰舉權アル大地主ノ名簿ヲ製シ之ニ其資格ヲ記載
シ其氏名ヲ告示スヘシ

關係者ニ於テ大地主名簿ノ正否ニ關シ異議アルトキハ告示後二十一日以内ニ郡長
ニ申立テ其郡長ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ
不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

大地主名簿ニ登錄セラレサル者ハ撰舉ニ參與シ及第八條第二項ニ依リ郡會議員タ
ルコトヲ得ス

大地主名簿ハ次ノ定期改撰前ニ行フヘキ補闕撰舉ニモ亦適用スルモノトス但大地
主ノ資格ヲ失ヒ又ハ撰舉權ノ要件ヲ失ヒタル者ハ之ヲ削除シ其氏名ヲ告示スヘシ
其處分ニ對シ異議アルトキハ本條第二項ノ例ニ依ル

定期改撰ノ期限内新ニ撰舉權ヲ得又ハ撰舉ニ依ラズシテ郡會議員タルノ權利ヲ得

タル者ハ解散ノ爲改撰スル場合ヲ除ク外期限内ニ於テ其名簿ニ登錄セサルモノト
ス

第十六條 郡會議員ノ撰舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ

其告示ハ過クトモ撰舉ノ日ヨリ七日前ニ之ヲ發スヘシ

第十七條 撰舉ノ順序ハ先ツ町村之ヲ行ヒ次ニ大地主之ヲ行フヘシ

町村ニ於テ行フ撰舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシ但數町村會會同シテ行
フ撰舉ハ郡長又ハ郡長ノ指定スル町村長ヲ撰舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

大地主ニ於テ行フ撰舉ハ郡長ヲ撰舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

第十八條 大地主ニ於テ撰舉ヲ行フトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 郡長ハ過クトモ撰舉ノ日ヨリ七日前撰舉人ニ召集狀ヲ發シ撰舉ノ場所日時ヲ
告知スヘシ

二 撰舉掛ハ撰舉會長ニ於テ臨時ニ撰舉人中ヨリ撰任シタル立會人二名若ハ四名
及撰舉會長ヲ以テ之ヲ組織ス

撰舉會長ハ撰舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

三 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人ダリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス

四 投票ハ選舉人自ラ選舉會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス
投票ハ匿名トス

五 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
- 二 被選舉ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ
- 四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在ラズ
- 五 本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其効アリトス
- 六 投票ノ受理并ニ効力ニ關スル事項ハ撰舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ撰舉會長之ヲ決ス
- 七 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ年齡相同キトキハ撰舉會長自ラ抽籤シテ其當撰ヲ定ム
- 八 撰舉掛ハ撰舉録ヲ製シテ撰舉ノ顛末ヲ記録シ撰舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シテ署名スヘシ
- 九 投票ハ撰舉ノ効力確定スル迄之ヲ保存スヘシ
- 十 第十九條 撰舉ヲ終リ當撰人定マリタルトキハ町村會ニ於テ行フ撰舉ニ在テハ町村長數町村會會同シテ行フ撰舉及大地主ニ於テ行フ撰舉ニ在テハ撰舉會長直ニ當撰

人ニ通知シ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

當撰人當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當撰ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ撰舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ撰舉ニ應スヘキコト及撰舉ニ依ラズシテ郡會議員タルヘキ大地主ニシテ町村ノ撰舉ニ當撰シタルトキハ其撰舉ニ應スルコト又ハ應セサルコトヲ同期限内ニ郡長ニ届出ヘシ

前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ルトキハ撰舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ
町村ノ撰舉ニ應スル大地主ハ第八條第二項ノ權利ヲ有スル者ト雖ニ重ニ其權ヲ行フコトヲ得サモトス

第二十條 議員ノ當撰ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ郡長ハ七日以内ニ更ニ撰舉ヲ行ヒ又ハ町村長ヲ命シテ更ニ撰舉ヲ行ハシムヘシ

第二十條 當撰人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當撰證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第二十二條 撰舉人撰舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトハ撰舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

第二十三條 當撰人其當撰ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スルトキハ其當撰無効トス

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第二十四條 郡會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ郡長ニ通知スヘシ

第二十五條 郡會議員被撰權ノ有無及撰舉ノ効力ハ郡參事會之ヲ裁決ス

郡參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 郡ノ歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ヲ認定スル事
- 三 郡有不動産ノ賣買交換讓渡讓受并ニ質入借入ノ事
- 四 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

五 郡有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事

其他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第二十七條 郡會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第二十八條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

郡會ハ其郡ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付郡長又ハ府縣知事ニ建議スル

コトヲ得

第二十九條 郡會議員ハ撰舉人ノ指示若ハ委嘱ヲ受クヘカラサルモノトス

第三十條 郡會ハ郡長ヲ以テ議長トス

郡會ハ改撰後ノ初會ニ於テ議長代理者一名ヲ互撰スヘシ

議長及議長代理者共ニ故障アルトキハ臨時議長代理ヲ互撰スヘシ

第三十一條 郡長若ハ特ニ郡長ノ委任ヲ受ケタル郡吏員ハ郡會ノ議事ニ參與スコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ

第三十二條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其他必要アルトキハ其事件ニ限リ臨時會ヲ開クコトヲ得

郡會ハ郡長之ヲ招集ス若議員三分一以上ニ於テ臨時ノ招集ヲ請求スルトキハ之ヲ招集スヘシ招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此

限ニ在ラス

郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第三十三條 郡會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付開會再回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 郡會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
第三十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議
ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ郡會ノ議事ニ參與シ及議決ヲ加ハルコトヲ得ス

第三十六條 郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第十八條四ヨリ六ニ至ル規定ニ依ルヘシ
第三十七條 郡會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス
一 郡長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ
議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用ヰスシテ其可否ヲ決スヘシ

第三十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ
并ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第三十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス
第四十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ
議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又發言ヲ取消サシム命ニ從バサルトキハ議長ハ當日
ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者ア
ルトキハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議長騷擾ニシテ整理ヲ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコト
ヲ得

第四十一條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者
アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合
ニ於テハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得
第四十二條 郡長若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議
場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第四十三條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム書記ハ議長之ヲ選
任ス郡吏員ヲシテ之ヲ兼テシムコトヲ得

第四十四條 郡會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末并ニ出席議員ノ氏名
ヲ記録セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前
郡會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第四十五條 郡會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ
施行スヘシ

第三章 郡參事會、吏員及委員

第四十六條 郡ニ郡參事會ヲ置キ郡長及名譽職參事會員四名ヲ以テ之ヲ組織ス
名譽職參事會員中三名ハ郡會ニ於テ其議員中ヨリ互選シ一名ハ府縣知事ニ於テ郡
會議員若ハ郡内町村ノ公民中ヨリ撰任スヘシ

第四十七條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トシ議長故障アルトキハ會員ニ於テ臨時議長代理ヲ互撰スヘシ

第四十八條 郡會ハ每通常會ニ於テ郡會ノ互撰シタル名譽職參事會員ノ補充員三名ヲ互撰シ其名譽職參事會ノ職員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十九條 名譽參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

郡會ノ互撰シタル名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其職員ヲ補充シ仍職員ヲ生ゼタル場合ニ於テハ二個月以内ニ臨時其撰舉ヲ行フヘシ

第五十條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
- 二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ招集スルノ暇ナシト認ルトキ郡會ニ代テ議決ヲ爲ス事
- 三 郡會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ郡有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
- 四 郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
- 五 郡長其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事

六 郡長ヨリ發スル郡會議案ニ付郡長ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事

七 臨時必要アルトキ郡ノ出納ヲ檢査スル事

其他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第五十一條 郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス

第五十二條 郡參事會ノ會議ハ傍聴ヲ許サス

第五十三條 郡參事會ハ議長又ハ其代理者及會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第五十四條 郡參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付郡參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第四十六條ノ定數ニ満たシムヘシ

第五十五條 町村制ノ規定ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡以上ノ町

八十二

村ニ交渉スルモノアルトキハ其郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其事件ヲ管理スヘキ郡參事會ヲ指定スヘシニ府縣以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第五十六條 郡長ハ郡會及郡參事會ノ議決ヲ施行シ及郡有ノ財産及營造物ヲ管理シ并ニ郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

郡ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ郡長ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中郡會又ハ參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ其旨ヲ記入スヘシ

第五十七條 郡會ニ於テ名譽職參事會員ヲ撰舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ應セザルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル迄郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルヲ得

非常事變ニ際シ郡參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラザルトキハ郡長ハ郡參事會員ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ郡會會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十八條 郡ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ外郡會ノ議決ニヨリ郡ノ費用ヲ以テ郡有財産又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給郡吏員ヲ置クコトヲ得

但其郡吏員ハ他ノ郡吏員ニ准シ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

前項郡吏員ノ給料手當退隱料等ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル其身元保証金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十九條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ郡事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ郡有財産及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得

第四章 郡ノ會計

第六十條 郡有財産及營造物管理ノ費用郡會郡參事會及委員ノ費用第五十八條ノ郡吏員ノ給料退隱料其他諸給與及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ其郡ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第六十一條 郡會議員名譽職參事會員及委員ニハ旅費及日當ヲ給スルコトヲ得但日當ハ一日五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十二條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財産ヨリ生スル收入其他雜收入ヲ以テ充ツルモノ、外ハ郡内各町村ニ分賦ス各町村分賦ノ割合ハ各町村前年度ノ直接國稅

府縣稅ノ徵收額ニ據ル

各町村分賦ノ額ハ各町村ニ於テ之ヲ町村ノ豫算ニ編入シ町村稅トシテ徵收其總額

ヲ郡金庫ニ納ムヘシ

第六十三條 郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ郡會ノ議決ニ依リ該部分ノ町村ニ對シ通常分賦額ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ増課スルコトヲ得

第六十四條 郡ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ其郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルコト方ヲ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ郡内町村ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

郡債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラズ但郡參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第六十五條 郡長ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘシ但郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ豫算ハ郡會ノ議決ヲ付スル前郡參事會ノ審査ヲ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意

見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ付テモ亦同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ并ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 豫算ハ毎年郡會ノ議決ヲ經テ之ヲ府縣知事ニ報告シ并ニ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其年各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其郡有財産表ヲ提出スヘシ

第六十七條 歳入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ郡長ニ於テ郡參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十八條 郡ノ収支命令ハ郡長之ヲ發スヘシ

第六十九條 會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規

定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條 郡ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少シトモ一回臨時検査ヲ爲スヘシ検査ハ郡長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ニハ郡參事會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第七十一條 決算ハ會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ニ於テ會計年度後三個月以内ニ之ヲ郡長ニ提出シ郡長ハ郡參事會ヲシテ之ヲ検査セシメ次回ノ通常郡會ノ認定ニ付スヘシ
決算報告書并ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ并ニ決算ハ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第七十二條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第七十三條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郡ノ行政ニ關スル府縣知事又ハ府縣參事會ノ處分若ハ裁決ニ不服ナル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

郡ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ

行政裁判所ニ出訴セシメトスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第七十四條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之ガ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ并ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ觀察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第七十五條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ直ニ府縣知事ノ裁決ヲ請フヘシ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十六條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ郡ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十七條 郡會招集ニ應ゼス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第七十八條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セサル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セサル議案歳入出豫算ニ係リ府縣知事ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十九條 府縣知事ハ郡ノ歳入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其郡ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十條 郡會ハ内務大臣之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ改撰スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス
郡委員ハ郡會ノ解散ニ依リ解職スルノ限ニ在ラス但改撰郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ改撰スルコトヲ得
郡會解散ノ後改撰終了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十一條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ郡債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

第八十二條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 郡有不動産ノ賣却讓渡并ニ質入書入ノ事

二 第六十三條ニ依リ郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ增課スル事

三 第六十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期中ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第八十三條 郡内總町村ノ共有ニ屬スル財産及營造物ハ郡内總町村ノ聯合又ハ組合ヲ以テ設立セル小學校ヲ除クノ外此法律施行ノ日ヨリ郡ノ所有ニ歸シ其權利義務トモ同時ニ郡ニ移ルモノトス

第八十四條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ府縣參事會ニ屬スル職務ハ府縣知事、行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十五條 嶋司ヲ置ケル嶋嶼ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第八十六條 此法律ニ依リ始メテ議員ヲ撰舉スルニ付郡會及郡參事會ノ職務ハ郡長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十七條 町村制施行ノ爲ニ定ムル直接税ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦適用ス

第八十八條 此法律施行ノ後ハ町村制第百二十六條第三ニ定ムル附加税徴收ノ許可ハ地租七分ノ一、五、十四分ノ三ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス

第八十九條 此法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十條 明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ地ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十一條 内務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ

法律第三十四號

(明治廿二年十二月廿八日)

決闘罪

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名

義ヲ以テスルニ拘ハラヌ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

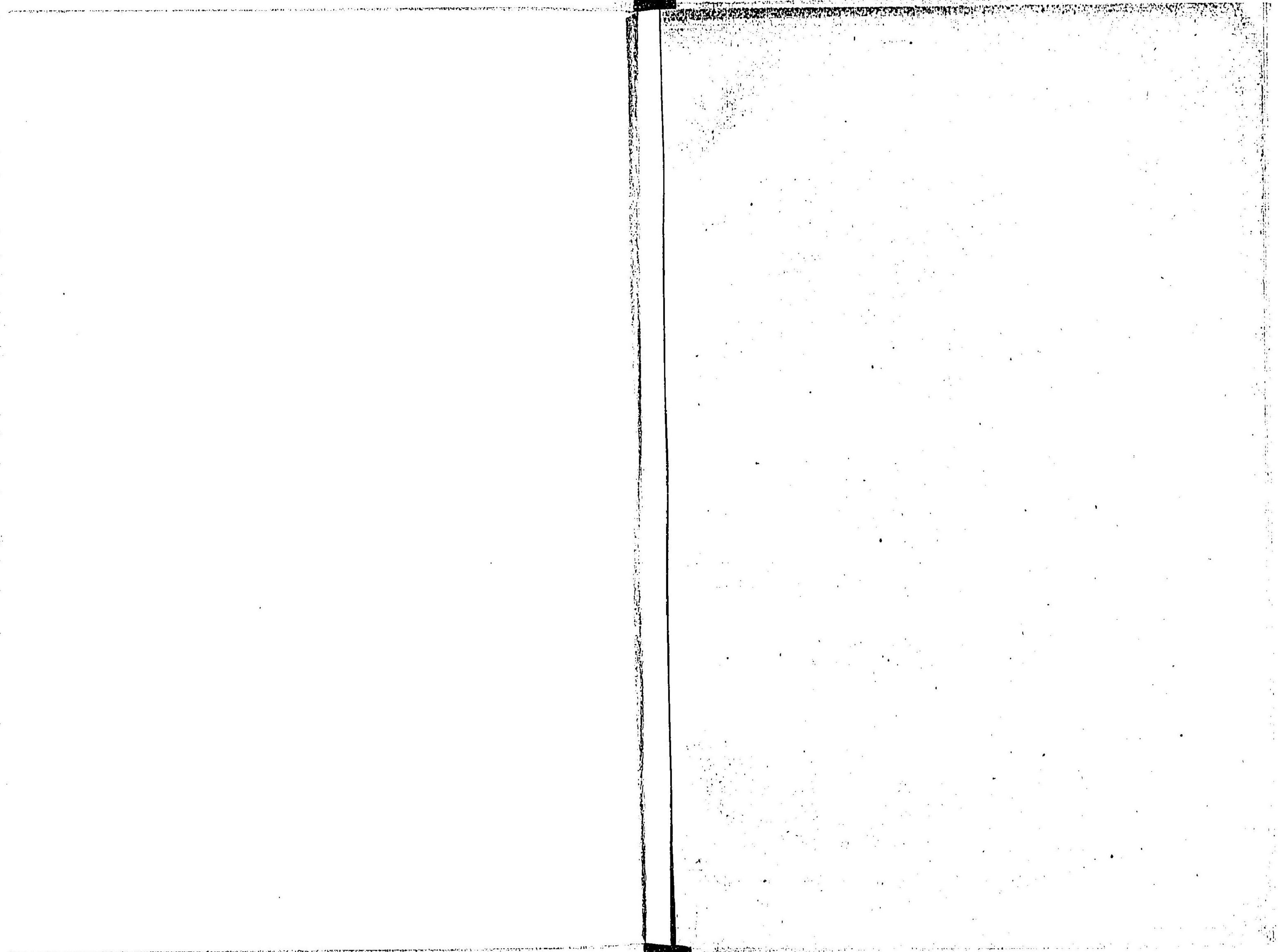
明治二十三年六月十八日出版
(非賣品)

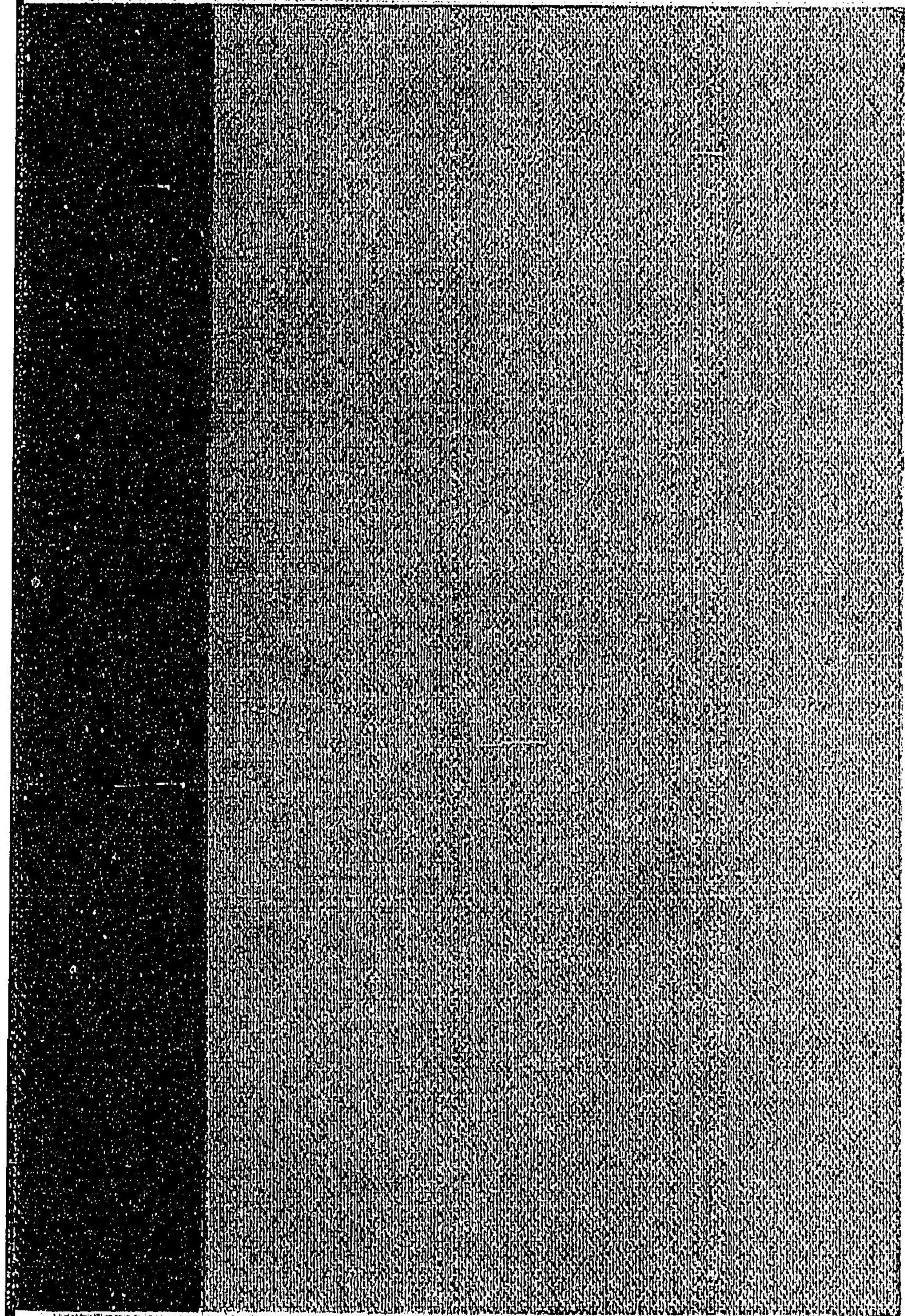
明治二十三年六月十八日出版

(非賣品)

福島縣警察本部

印刷所 岩代福島町九丁目
竹内活版舎





法令彙纂

国立国会図書館

CZ

251

014

禁電子式複写

031986-000-3

CZ-251-014

法令彙纂

福島県警察本部

M23

BBF-0156

